

令和6年度第1回大東中学校運営支援協議会会議録

- 1 会議名 令和6年度第1回大東中学校運営支援協議会
- 2 開催日時 令和6年5月31日（金）午後2時30分から午後4時まで
- 3 開催場所 大東中学校多目的教室
- 4 出席者
 - (1) 委員 小野寺俊次委員（会長）、小山充委員（副会長）、千葉満委員、小野寺京子委員、伊藤俊一委員、星律委員、伊藤玉男委員、松田恵美子委員、柏原厚子委員、及川光正委員、佐藤恵子委員、菊池聡委員
 - (2) 事務局 菅原正浩大東中学校長、菊池啓志大東中学校副校長
- 5 会長、副会長の選出
会長に小野寺俊次委員、副会長に小山充委員がそれぞれ選出された。
- 6 協議
 - (1) 大東中学校運営支援協議会について
資料に基づき説明を行った。質疑応答なし。
 - (2) 令和6年度学校経営方針と「大東中まなびフェスト」について
資料に基づき事務局から説明を行った。以下、質疑応答。
委員 大東地域も中1ギャップはあるのか。
事務局 あると思う。言葉のイメージは悪いが良いように捉えたい。自分で乗り越えることも必要である。ギャップを乗り越える時に教職員が手助けし、見守ることも必要である。
委員 中1ギャップを解消するために、小学校との連携は何か考えているのか。
事務局 6月に大東地域の各小学校の校長と会議を開き今後の予定を確認する。小学校の先生が中学校に来て授業参観したり、逆に中学校の先生が小学校の授業参観することを考えている。
委員 統合になり、通学の問題は何かあるのか。
事務局 市営バスの乗車の仕方で、騒いでいて学校にクレームが来たことがある。4時便と5時便があるが、4時便で帰らず5時便まで残る生徒が多数いた。先生の勤務時間の関係もあるので課題である。
委員 行事等の時は臨時便の対応はしているのか。

事務局 対応していただいている。

委員 特別支援の担任は何人か。

事務局 2人である。教科担任もいるし、親学級に入る事もあるので全職員で見守っている状況である。来年も特別支援の生徒は増える見込みである。本校は加配の先生がいるので配慮されている。

委員 昨年度の3年生不登校の生徒は今現在どうのようになっているのか。

事務局 自宅にいる。進学した生徒については高校をやめたという情報は入っていない。

- (3) その他
なし

7 情報交換

- (1) 学年・生徒の状況について

資料に基づき説明を行った。以下質疑応答。

委員 情報交換の資料③ウの「学校支援地域本部」は現在はないので、削除をお願いしたい。学校の樹木についてはお金を払って業者に剪定をお願いしたほうがよい。

事務局 「学校支援地域本部」については削除する。学校の樹木については業者をお願いする方向で考えたい。

委員 エの「家庭科の被服の授業や水泳授業において、学校支援地域本部事業での協力をお願いしたい」とあるが、今年度の水泳授業は体育科の先生が複数いるということなので、家庭科のみとしたい。

事務局 承知した。

委員 完全不登校の生徒はいるのか。

事務局 月7日以上欠席者が5名いるのが現状である。理由は様々である。個の問題が多い。教室に入れないが、部活動に行くという生徒もいる。

委員 部活動の部分を詳しく教えてほしい。

事務局 部活動の時間が少なく、ほとんど育成会をお願いしている現状である。現在、地域部活動の移行期である。未加入の生徒も二十数名ほどいる。その中にはクラブチームに入っているの、部活動には入部しない生徒もいる。

委員 関連して、部活動に関わって育成会練習には先生方は行っているのか。

事務局 行っていない。

委員 先生の疲労がたまらないようにしてほしい。

事務局 先生には健康第一と話している。先生方には無理しないようにしてほしい。

委員 子ども達が目減りが多い。地元の高校への進学が少ない。中高連携をしてほしい。

事務局 子どもたちの高校選択も大きくかかわっている。高校の魅力が中学生や小学生に伝わっているのか疑問である。現在3年生の生徒と面談をしているが、他の地域の高校に行く生徒が多い。理由を聞くと「入りたい部活動がある」、「兄や姉が通学している」ということだった。

委員 高校が再編されると辛いものがある。

委員 自分の子どももそうだが、今の子ども達は将来のビジョンが明確になっている。キャリア教育の賜物だと思う。この高校に進学すれば、どの大学に進学できるなどが伝わればいいのではないか。

事務局 キャリア教育については、2年生で5日間社会体験がある。1年生は企業見学をさせたい。そして大東の企業とのつながりを持たせたい。

委員 キャリア教育では製造業に就いている人が大半なので、製造の現場を見学させたらいいのではないか。また、自分が中学生の時は、病院は医者と看護師だけ働いていると思っていたが、他にも理学療養士や薬剤師などもいることを知った。そういうところもわかってほしい。

(2) 熟 議

学校と地域が連携したよりよい活動について、グループごとに意見交換を行った。以下、熟議の概要。

ア 「学校（生徒）が地域に」

【大原地区】

- ・水かけ祭りに大原地区以外の生徒も参加していただきうれしかった。
- ・まちづくりの会主催の「ひまわりの種」植え、刈取り作業のボランティア

にもたくさん生徒に参加してもらっている。

- ・夏には「ホッパの会」主催のたたら製鉄の炉づくりがある。
- ・石磨きの行事がある。
- ・地区民運動会では中学生が役員として競技や準備に協力していただいている。

【摺沢地区】

- ・お祭りや地域行事に参加したい生徒がいるが、学校行事等と重なる。
- ・地域の行事等に協力したいが、地域の行事やイベントを把握できていない。
- ・学校から地域の人々の協力を求めたいが、どのような人材が存在するか把握できていない。

【興田地区】

- ・地区民運動会ではスタッフとして生徒に手伝いをお願いしたい。
- ・文化祭について生徒は作品の出展（習字）だけだったので、習字以外も出展してほしい。
- ・展示の手伝いもしてほしい。
- ・統合して子ども達をみる事がなくなった。
- ・地域の行事に参加してほしい。

イ 「地域が学校に」

【大原地区】

- ・地域学習での手伝いはできるが、統合となり6つの地区になったため難しいのではないかと。

【摺沢地区】

- ・学校行事等で協力したいが、学校でどのような地域人材を求めているのかわからない。
- ・地域の行事等に学校にも協力してもらいたいが、学校行事や部活動と重なっていることが多い。
- ・ア及びイのギャップを埋めるために、学校と地域との行事等の確認（連絡調整会議の開催）や人材の結びつけ（学校で必要とする人材の把握、地域人材の把握）といった地域団体や人を結びつける「地域共同体」の役割（マッチング）が大切。

【興田地区】

- ・地域の良さ、文化伝統を生徒に教える。

・環境整備など

8 担 当 大東中学校